



〈公開〉 生と死とその後

死生学研究

- | | | |
|--|---|-----------------------------|
| □会場 東洋英和女学院大学大学院
(六本木) 201教室
東京都港区六本木5-14-40 | □最寄駅 六本木駅(日比谷線徒歩10分)
麻布十番駅(大江戸線徒歩5分、南北線徒歩7分) | □参加費 各回500円
本学院在校生・教職員無料 |
| □先着 100名様 | □事前申込み 不要 | |

第8回連続講座

11月26日(土)
14:40-16:10

■プロフィール

生命倫理研究者。医師。主な研究領域はバイオエシックス・終末期医療の倫理・高齢者の介護倫理・認知症ケアの倫理。

■主要業績

『ケースから学ぶ高齢者ケアにおける介護倫理』医歯薬出版2008年(共著)。『認知症ケアの倫理』ワールドプランニング2010年。『医療のための事前指示書「私の四つのお願い」』ワールドプランニング2011年。

箕岡真子

(みのおか まさこ)

東京大学大学院医学系研究科医療倫理学分野客員研究員/箕岡医院内科医師

認知症高齢者の看取り

内容紹介： 認知症の患者数の増加は著しく現在250万人に及ぶ。そして、その終末期には、嚥下困難が起こり、延命治療である経管栄養(胃ろう)について考慮しなければなくなる。しかし、本人の終末期ケアに対する意向がわからない場合には、このような延命治療である経管栄養を実施するのかわからないのか、家族は苦悩に陥る。本人の価値観に沿った人生の最期の生き方を尊重するためには、前もって自分の終末期ケアに関する意向を家族等に伝えておく事前指示が重要である。事前指示書『私の四つのお願い』を例にとり、本人の願望に沿った終末期とは何か、看取りの満足感とは何かについて考えてみたい。

第9回連続講座

11月26日(土)
16:20-17:50

■プロフィール

1988年東京生まれ。17歳の時、伯父について出家。大正大学仏教学部卒業。同大学院博士課程単位取得。米国ジョージタウン大学ケネディ倫理研究所に客員研究員として留学後、現職。日本生命倫理学会理事、日本死の臨床研究会常任世話人。死んでからの仏教ではなく、死を前にしたさまざまな立場の人々を支える仏教を目指し、末期がん患者のベッドサイドを訪問する「心のケア・ボランティア」や、子供たちへの「いのちの授業」の活動を行っている。

■主要業績

『また会えるさようなら—末期がん患者に仏教は何かできるのか』佼成出版2010年。『いのちに寄り添う道』一橋出版2008年(共著)。『介護の思想—なぜ人は介護するのか』久美出版2004年(共著)。

佐藤雅彦

(さとう まさひこ)

大正大学非常勤講師/
浄心寺住職

また会える「さようなら」—末期がん患者との出会いから

内容紹介： 末期がんの患者さんを訪問すると、興味深い共通の言葉に出会います。日本人が死を間近にした時に表現される言葉とは、どんな言葉だと想像されるでしょうか。また、日本人は大切な人との別れの時に「じゃあね」「またね」と言葉を発しても、「さようなら」と昔からの別れの言葉で挨拶をする人は、少なくなっているように見受けられます。それはなぜでしょうか。末期がん患者の「心のケア・ボランティア」として、いのちの瀬戸際で出会った人々から教えていただいた、日本人の心と仏教との関わり、別れの言葉のほんとうの意味するもの、等について平易にお話し申し上げたいと思います。

〈予告〉 2012年1月21日(土曜日)

14:40~16:10 第10回連続講座 Miriam T. Black (本学人間科学部准教授)
Education for Life and Beyond 「生とそれを越えるものの教育」*発表は英語、日本語訳あり
16:20~17:50 第11回連続講座 渡辺和子(本学人間科学部教授)
変容過程の神話・儀礼・美術



お問合せ先

東洋英和女学院大学死生学研究所
shiseigaku@toyoeiwa.ac.jp
03-3583-4035 (fax専用)